# 東日本大震災・被災地域に於ける”文化芸術”に関する「聞き取り調査」

坪能克裕

平成 23 年 3 月 11 日に起きた「東日本大震災」による被災地域に於ける文化芸術に関する聞き取り調査を、平成 23 年 4 月 16 日から現地で行っている途中経過の報告です。

☆**目的**：大災害時に「文化芸術」は被災者の人々・地域にとって、どんな役割や成果があったか、何を望まれているか、現地の声を聴く。

☆**対象**：公立文化施設職員、学校関係者、避難所の人々が中心

☆**内容**：地域の文化財（市民文化の育成成果含む）の現状や、文化芸術の関係者の支援の実態

**★報告**

1) 全体に施設の損傷は大きく、修復に時間がかかる　(全損もある)

2) ソフトは二つに分かれている
一つは、文化施設職員や、地域の文化ボランティアが、文化庁の助成企画の成果で、活動を展開している。
もう一つは、文化的な企画に至らず避難所などの活動に追われ、今後の展開に期待している。

3) 子どもを含む現在の状態
現在は、災害発生時～三週間頃の「第一期」から、「第二期」になっている。
第一期は、茫然自失とライフラインの確保以外考えられない。そして第二期の現在。一つは、早急に子どもの「心のケア」が必要
二つに、「元気の共有」が欲しい。歩み始めのサポートを意味している。
これらの二つに共通するのは“芸術の力”を、文化施設や学校(教育委員会なども)の望まれる方法で提供して欲しい。癒す力としても必要と感じている。小さな村や地域こそ望まれている。

4) 市民文化育成の”種まき”を再度展開する理解が欲しい。また、文化施設の貴重な機会になる。その種の企画を応援して欲しい。

5) 復興の原動力は「文化芸術」であることを実践したい。

**★感想・希望**

6) 大型企画・団体参加は無理がある。
各会館のソフトで対応している。アウトリーチ事業で活躍しているところも団体もある。
ボランティアだけでは続かない。「復興支援の文化芸術企画」に対して、僅かでも臨時の「助成」をお願いしたい。特に「子どもの心のケア」への参加が急がれている。また、遠隔地の子どもを考慮して欲しい。
※「教育委員会」と連動できる地域と、支援の手が届かない地域がある。
※　ハードの復興予算は自治体により時間がかかるところがある。ソフトの “人材育成”の継続支援は、是非お願いしたい。

7) 専門家がチームを組んで、災害時の文化芸術の果たす(果たした)役割の研究 調査を実施して、記録に残し、公表し、海外にも「発信」して欲しい。
※　三ヶ月以内に一回か、遅くても半年までに一回。そして１～2 年後に一回実施されることも考えられる。それは「アーツカウンシル」の母体資料(評価＆検証)にもなると思われる。

以上